

## 当面の作業ポイント

# 目指そう、品質収量安定化 基本を大切にすることが正常作の第一歩

高品質で安定した収量を確保し  
所得の向上をはかりましょう。

### 一、完熟良質堆肥の施用

(「たばこ作りの基礎知識」P2～5参照)

- 熟度の悪いものは、ギリギリまで切り返しを行ない、熟度を進める。
- 未熟濃厚堆肥では、初期成育が遅れ、「大柄晩作」や「N残りの赤たばこ」になりやすいので、使用を制限する。
- 購入堆肥を予定している場合は、早めに準備し、熟度等十分確認する。

### 二、適正施肥

(「たばこ作りの基礎知識」P16～19参照)

#### ① 土壌検定結果の活用

- 土壌検定を行なったほ地は、N量を確認し、施肥量を決める。

#### ② 施肥上の注意点

- 耕作地の土質、耕土の深さ、地力、前年の作柄および前作物等を十分考慮する。
- 土壌消毒を行なったほ地は方法、量、薬剤の種類により減肥する。
- 集団地、総代区毎に肥料設計の意見交換を実施することが作柄の正常化・斉一化の近道である。

### 三、施肥畦立

(「たばこ作りの基礎知識」P20～21参照)

- 施肥畦立時の天候不順により、作業が遅れる傾向にあるので、早目の作業に努める。

- 土壤水分の目安は、土壤を手で握り、はなした時2～3ヶ所割れる状態が最適である。
- 曇雨天続きで作業ができない時は、事前に有機化成と堆肥を混合して準備しておく。
- 畦は30cm以上の大高畦を基本とする。
- ほ地周りは排水を徹底し、湿害を防止する。

#### 四、春消毒(クロルピクリン)

- 薬量は10a当り6割以内とし、植付1ヶ月前には終了する。  
(注入口は必ずふさぐ)

#### 五、苗床管理

(「たばこ作りの基礎知識」P22～26参照)

##### ① 子床準備

- 子床は、日当たりが良く、排水の良い所に設置し、風当たりが強い場所では周囲に防風網等で保温対策を行なう。
- 表土堆肥は、通気・排水が良く、適度に水持ちする完熟したものを使用する。
- 自家製の表土は、蒸気消毒を行なう。  
(90℃の10分以上で水分不足がないように注意する)
- 子床肥料は、加燐硝安を10a当り800～900g使用する。  
(肥料が多くて苗を失敗する人が多いです)
- 肥料混合は、混合ムラがないようにし、植え替えの2週間前までには終了する。

##### ② 子床の管理

- 苗の配付があったら、低温に気をつけながら早急に植え替えをする。

- 植え替え苗の大きさは、5～6枚苗が適苗で、植え替え後2～3日は遮光し、高温障害等に十分注意し、活着を良くする。
- ハウス内は、20～25℃が適温で、朝夕は13℃以上、昼間は28℃以下の温度下で管理する。(低温、高温障害防止)
- 植え替え後3～4日間は、床面が乾かないように多目に灌水し、その後は、夕方床面がうすく乾く程度にし、水分過多とにならないよう注意する。
- 病害、虫害に注意し管理する。  
(農薬により苗の奇形や生育不良も見受けるので農薬使用基準を守る)
- 本畑移植7～10日前、早目の硬化(順化)処理を行ない、苗の根張りを良くしておく。(スソ開け等)

## 六、植付

(「たばこ作りの基礎知識」P27～28参照)

- ① 植付苗は9～10枚苗で根張りの良い、葉色濃く、葉肉の厚いものが良苗です。
- ② 植付の深さは13～15cm程度とし、苗の肥土が埋まるようにていねいに植付しましょう。
- ③ 植付時の気温に注意し、北風が強く寒い日や雨の降る日は植付しないようにしましょう。

以上、1月、2月は寒い日、天候不順が続きます。

健康管理に留意しながら、計画的な早目の作業により、健苗を作り、適期の植付に努めましょう。